

03
.26,27

第11回
日本高校生
パラメンタリー
ディベート連盟杯



共同主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟 (HPDU of Japan)
一般社団法人 日本英語交流連盟 (The English-Speaking Union of Japan)
後援：文部科学省 (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)
：ブリティッシュ・カウンシル (British Council)
カナダ大使館 (Embassy of Canada to Japan)
特別協賛：有限責任 あずさ監査法人 (KPMG AZSA LLC)
協賛：公益財団法人 日本英語検定協会 (Eiken Foundation of Japan)
iae グローバルジャパン株式会社 (iae GLOBAL JAPAN, Inc.)
株式会社テレビ東京 (TV TOKYO Corporation)
キヤノン株式会社 (CANON INC.)

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 (Canon Marketing Japan Inc.)
ANA ホールディングス株式会社 (ANA HOLDINGS INC.)

メディアパートナー：読売新聞社 (THE YOMIURI SHIMBUN)
協力：株式会社アルク (ALC PRESS INC.)
イーエムティー株式会社 (Energy Management Technologies KK)
エイムネクスト株式会社 (AIMNEXT Inc.)
株式会社EduLab (EduLab, Inc.)
株式会社オールアバウト (All About, Inc.)
株式会社トモノカイ (Tomonokai Co., Ltd.)
公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 (Japan Philharmonic Orchestra)

CONTENTS:

| | |
|--------------------------------|----|
| 関係団体..... | 1 |
| ご挨拶..... | 2 |
| 大会役員名簿..... | 4 |
| 大会概要..... | 6 |
| 注意事項..... | 8 |
| オンライン利用の大会実施に関する注意事項..... | 9 |
| 出場校..... | 10 |
| 大会日程..... | 12 |
| 試合形式..... | 14 |
| 大会ルール..... | 15 |
| 過去の大会の結果..... | 17 |
| 第11回 HPDU 新緑杯・第3回新芽杯 実施要項..... | 20 |
| 模擬 G20 Summit 2022 開催について..... | 22 |
| 大会要項..... | 23 |

共同主催・協賛・協力団体掲載ページ

| | |
|----------------------|-------|
| 一般社団法人 日本英語交流連盟..... | 5 |
| 公益財団法人 日本英語検定協会..... | 11,13 |
| 有限責任 あずさ監査法人..... | (裏表紙) |

◆ 関係団体 - Organizers & Supporting Organizations -

共同主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟 (HPDU of Japan)

一般社団法人 日本英語交流連盟 (The English-Speaking Union of Japan)

後援：文部科学省 (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)

ブリティッシュ・カウンシル (British Council)

カナダ大使館 (Embassy of Canada to Japan)

特別協賛：有限責任 あずさ監査法人 (KPMG AZSA LLC)

協賛：公益財団法人 日本英語検定協会 (Eiken Foundation of Japan)

iae グローバルジャパン株式会社 (iae GLOBAL JAPAN, Inc)

株式会社テレビ東京 (TV TOKYO Corporation)

キヤノン株式会社 (CANON INC.)

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 (Canon Marketing Japan Inc.)

ANA ホールディングス株式会社 (ANA HOLDINGS INC.)

メディアパートナー：読売新聞社 (THE YOMIURI SHIMBUN)

協力：株式会社アルク (ALC PRESS INC.)

イーエムティー株式会社 (Energy Management Technologies KK)

エイムネクスト株式会社 (AIMNEXT Inc)

株式会社E d u L a b (EduLab, Inc.)

株式会社オールアバウト (All About, Inc.)

株式会社トモノカイ (Tomonokai Co.,Ltd.)

公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 (Japan Philharmonic Orchestra)



Ryuji KITAHARA

Chief Director of High School Parliamentary Debate Union of Japan
一般社団法人日本高校生パラメンタリーディベート連盟 理事長 北原隆志

Welcome to the 11th HPDU Competition, the most prestigious national parliamentary debate championship for high school students. Due to the Corona Disaster, we are holding this year's competition online again, but we hope you enjoy it.

When you are speaking at your computer, please be more aware of the people behind the screen than you are face-to-face with them.

The main reason why HPDU is working hard to spread parliamentary debate to high schools all over Japan is to develop as many people as possible with the attitude and skills to give speeches that will win the hearts and minds of audiences. No matter how good an idea you have, if you cannot do it, you will not be able to move people. Always keep in mind the phrase "audience FIRST" and make your speech attractive and persuasive.

Another skill that can be acquired through parliamentary debate is the ability to communicate with peers and organize opinions. You must be able to develop coherent arguments with your three teammates in a short amount of preparation time. No matter how good speakers you three are, if you cannot do that, you will not be able to persuade your audience. Always keep in mind the word "teamwork" as well.

Good luck.



Sadaaki NUMATA

Chairman, The English-Speaking Union of Japan (ESUJ)
一般社団法人 日本英語交流連盟 会長 沼田貞昭

We at ESUJ take great pleasure in cohosting with HPDU the HPDU Competition 2022. As a trail-blazer of parliamentary debate in Japan for more than 20 years, we are very happy to see the fruition of our efforts in the mainstreaming of debate in the curriculum for high school English starting next month. Taking advantage of our close collaboration with English-Speaking Union UK, we will continue to play an active part in organizing seminars and workshops for teachers to learn how to teach parliamentary debate and providing opportunities for high school students to have access to international standard debates, deepen their understanding on international issues, and foster friendship with their peers around the world.

COVID-19 is still with us. The HPDU Competitions in 2020 and 2021 have amply proved the resourcefulness and prowess of the HPDU officers, judges, volunteers and debaters to overcome the challenges posed by the pandemic. I trust that they will again prove their resilience and build even further on the success of the past two competitions.



Naoji YUI

Former President, Eiken Foundation of Japan
Auditor of High School Parliamentary Debate Union of Japan
公益財団法人 日本英語検定協会 元会長 油井 直次
一般社団法人日本高校生パラメンタリーディベート連盟 監事

In 2016 the voting age was lowered from 20 to 18 marking a historic change in Japan's electoral system. Your responsibilities have increased and your voices count more than ever in shaping Japan's future. Debating skills will play an important role in helping you to analyze and decide which candidate or party you wish to support by carefully judging their arguments. You will need to think critically. Debating various kinds of motions will help you develop such skills.

The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology is including debating in Japanese high school English courses to nurture young people who are capable of actively communicating on the global stage. Studying a wide range of topics is essential and debating about them will undoubtedly enhance your English communication skills. We hope that the experiences you acquire through these debates will broaden your perspectives and enable you to be active members of the global community.

◆ 大会委員名簿 - Organizing Committee -

※HPDUの大会は全てボランティアにより運営されています。

| | | | |
|----------------------|--------|--------|--|
| 大会運営委員会 (HPDU 役員) | 理事長 | 北原 隆志 | 渋谷教育学園渋谷中学高等学校 教諭 |
| | 事務局長 | 古賀 記洋子 | 日本大学第一中学校・高等学校 教諭 |
| | 理事 | 小林 良裕 | 豊島岡女子学園中学高等学校 教諭 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 博士課程在籍 |
| | | 前田 和 | 埼玉県立久喜北陽高等学校 教諭 |
| | | 浜野 清澄 | さいたま市立浦和高等学校 教諭 |
| | | 西崎 真広 | 帝京大学中学校・高等学校教諭 |
| | | 天海 揚介 | [OBOG 代表] 埼玉県立伊奈学園総合高等学校 卒業生 |
| | | 須田 智之 | 筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭 |
| | | 大関 朝美 | 富士見中学高等学校 教諭 |
| | | 河野 周 | 聖光学院中学・高等学校 教諭 |
| | 運営委員 | 吉野 舞起子 | 一般社団法人 日本英語交流連盟 (ESUJ) 事務局長 |
| | 監事 | 油井 直次 | 元公益財団法人 日本英語検定協会 会長 |
| 顧問 | 名誉顧問 | 明石 康 | 公益財団法人 国立京都国際会館 理事長 一般社団法人 日本英語交流連盟 (ESUJ) 副会長 元国連事務次長 |
| | 名誉顧問 | 沼田 貞昭 | 一般社団法人 日本英語交流連盟 (ESUJ) 会長 元駐カナダ大使 |
| | 顧問 | 加藤 一郎 | 千葉大学客員教授, 元全農代表理事専務 |
| | 顧問 | 新庄 一郎 | 弁護士, 元検察庁検事正 |
| | 顧問 | 酒井 弘行 | 公認会計士, 元KPMGジャパン日本代表, 元あずさ監査法人理事長 |
| | 顧問 | 下野 雅承 | 元日本IBM 社長 |
| | 顧問 | 讃井 暢子 | 元一般社団法人 日本経済団体連合会常務理事 |
| | 大会主顧問 | 岡田 真樹子 | 一般社団法人 日本英語交流連盟 (ESUJ) 常務理事 元山梨英和大学人間文化学部人間文化学科教授 |
| | 大会特別顧問 | 綾部 功 | 東海大学文学部英語文化コミュニケーション学科 教授 |
| | 大会特別顧問 | 中川 智皓 | 大阪府立大学 工学研究科 機械工学分野 准教授 |
| HPDU 西日本代表 | | 西山 哲郎 | 静岡聖光学院中学校・高等学校校長補佐 |
| 四国・九州代表 | | 加藤 彰 | 九州大学 非常勤講師 / 学術研究者 |
| チーフコーチ | | 小野 暢思 | 国内外の各種パラメンタリーディベート大会で優勝 32 回、ベストスピーカー賞 28 回、2015 年パラメンタリーディベート世界大会 (World Universities Debating Championship) ESL 部門 Quarter Finalist、EFL 部門 4th Best Speaker] |



第 11 回 日本高校生パーラメンタリーディベート連盟杯 HPDU Competition 2022

Co-sponsored by HPDU of Japan and ESUJ

The English-Speaking Union of Japan (ESUJ, 一般社団法人 日本英語交流連盟) は 2019 年から HPDU 杯を共同主催しています。

ESUJ は日本の人たちが国際コミュニケーションの「道具」としての英語に慣れ親しむようになることを目的として 1998 年 10 月に創立された非営利団体です。英国を中心とする世界的ネットワークである English-Speaking Union (ESU) の一員として、English in Action 講座（初心者から上級者向きまで。会話、スピーチ、ディスカッション）、ディベート練習会とセミナー、講演会、懇親会やアウティング、そして日本からの意見発信などの活動を行っています。創立以来の主要活動であるパーラメンタリーディベートの普及については、20 年間開催した ESUJ 大学対抗大会と社会人大会を通じてその輪が定着してきました。この経験を踏まえて、HPDU of Japan と共に高校生の大会を実施して参ります。

HPDU 杯 優勝者教育奨励賞 ESUJ Award

HPDU 杯優勝者には英国で開かれる ESU Debate Academy 参加のための教育奨励賞が授与されます。ESU Debate Academy は毎年 8 月に英国で行われる 5 泊 6 日の高校生対象のサマースクールです。国際的なディベート大会で活躍した経験豊富なディベートメンターから直接ディベートの指導を受けます。*

2022 年度 ESUJ Award

コロナ禍での英国 ESU Debate Academy 開催が困難なことに鑑み、〈ESUJ Award〉として HPDU 杯優勝チームのディベーター 1 名につき 教育奨励金として 10 万円、総額 30 万円を贈呈します。例年、HPDU 杯優勝者には英国で開催される ESU Debate Academy への教育奨励賞 〈ESUJ Award〉を授与していますが、2022 年度は教育奨励金の贈呈に変更しました。

ESU (English-Speaking Union) は 1918 年に英国で発足し 100 周年を迎えました。現在では世界約 55 カ国で、各国の事情やニーズに合わせてディベート、スピーチ大会、ドラマコンテスト、最近の国際情勢に関する講演会等、会員の交流と英語コミュニケーションのための多彩なプログラムを実施しています。英国女王エリザベス II 世をパトロンとする英国王室認可の教育チャリティー団体です。パブリックスピーキングとパーラメンタリーディベートの指導において最も長い歴史と権威のある団体です。

(<https://www.esu.org>)

*2021 年 8 月に予定されていた Debate Academy は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となりました。

第 11 回 日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯
HPDU Competition 2022 (Co-sponsored by HPDU and ESUJ)

*新型コロナウイルス対策のため、例年の大会スケジュールを大幅に変更し、自宅から参加できるオンラインで開催することにいたしました。

□ 趣旨

全国の高校生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を養う。また、参加者間の交流を図り、共に学び合う関係を作る。

□ 日時・場所

1) 都道府県大会 2022年1月～2月中 ※場所は各地域で決定し実施する。

2) 全国大会予選 (44チーム) 及び決勝トーナメント(予選上位8チーム)

期間： [予選] 2022年3月26日 (土) 8:50～17:45 頃

[決勝トーナメント] 3月27日 (日) 9:00～16:00 頃

Zoomを使用して実施するため各自Wi-Fi環境が整っている場所をご用意してください。また、大会当日の連絡などにはLINEを使用します。参加選手および顧問の先生は予めZoomとLINEのアカウントを取得してください。

□ 内容

World Schools Debating Championships(WSDC) Style (但し本大会用に修正を加えたもの) による即興型英語ディベート大会。1チーム3名、予選4試合 (2～4 試合目はパワーペアリング) 各チームの勝ち数と得点ポイントで、上位8チームを決め、決勝トーナメント

□ 参加資格

日本に住所がある高校に在学している学生(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)のうち、日本高校生パラメンタリーディベート連盟に公式認定された各都道府県大会に参加して出場権を獲得した高校の生徒、または本連盟より特別に出場権を与えられた者 (同一都道府県内の出場希望校が1校のみであった場合など)。

□ 参加費

1チームにつき 3,000 円

□ 各種教育奨励賞

1) ESUJ 賞：

ESUJ 賞：コロナ禍での英国 ESU Debate Academy 開催困難なことに鑑み、優勝チームのディベーター1名につき教育奨励金として10万円贈呈。総額30万円。

2) あずさ監査法人賞：

参加者全員に HPDU 特製パラメンタリーディベート練習用テキストを贈呈。

3) 日本英語検定協会賞：

予選ベストスピーカー賞受賞生徒、決勝トーナメント出場校に図書カードを贈呈

4) 日本フィルハーモニー交響楽団賞：

上位4チームに音楽CDを贈呈

5) キヤノン賞：

優勝チームにデジタルカメラとSDカードを贈呈

6) キヤノンマーケティングジャパン賞：

準優勝チームにスマホ専用ミニフォトプリンターを贈呈

7) アルク賞：

予選大会ベスト16以上のチームに書籍を贈呈。

全国大会優勝校持ち回りの優勝カップ 「HPDU杯」について

2018年、都道府県大会が本格的に開催されたことを記念して、有限責任あずさ監査法人様が持ち回りの優勝カップを寄贈してくださいました。高校生によるパラメンタリーディベート国内大会の最高峰に立ったチームに授与されるにふさわしい素晴らしいカップです。

そこに皆さんの学校名が入ったペナントをしっかりと結ぶことを目指して、最高のパフォーマンスをして下さい。



◆ 注意事項 - Regulations -

- ① ディベーターは試合中に時間を計る際はストップウォッチかタイマーを使用してください。
- ② ディベーターは準備時間内にチーム内の者以外と相談することはできません。
- ③ ディベーターは準備時間内そして試合中に、電子辞書を除いた電子機器(例 インターネット接続機能を持ったタブレット・コンピューター等)を資料の検索を目的に使用することはできません。
- ④ ディベーターは準備時間内そして試合中に、書籍など、辞書以外の紙媒体の資料を閲覧することはできませんが、自作の資料ノートやコピーをファイルしたもの、フォーマットが書かれたプリントの使用は許されています。
- ⑤ Point of Order (試合中に対戦相手のルール違反を指摘する行為) は禁止します。ルール違反があった場合、ジャッジが判断をするものとし、試合進行上支障をきたすルール違反があった場合、ジャッジが適切な処置をします。
- ⑥ Constructive Speech に対して Point of Information (POI) を行う場合「Point」「Point of Information」といった表現で POI による発言の許可をスピーカーに求めてください。5分間の最初と最後の30秒間(決勝は7分間なので最初と最後の1分間)は POI 不可。POI により発言を許可された者は、15秒間だけ発言を許されます。Reply Speech に対しては POI 不可。
- ⑦ 相手チームの顧問の承諾なしに、試合を録音、撮影、録画することは禁止です。
- ⑧ HPDUの記録担当が撮影したものに関しては、後日、HPDUやESUJのホームページ、後援・共催・協力団体への報告書、HPDUやESUJについての説明会や講演で使用することがあります。ご了承ください。
- ⑨ 大会の様子は読売新聞が取材し、同社の媒体で紹介される予定です。写真撮影も行うこともあるかもしれません。参加者全員の「撮影同意書」提出が大会の参加条件になりますので、よろしくお願いたします。読売新聞の記事に関しても HPDU や ESUJ の報告書などで使用することがあります。
- ⑩ 急な発熱などにより選手を変更せざるをえない場合は、大会前日の19時までに連絡してください。代替りの選手が見つからず、2名以下での参加となってしまった場合は、個人賞の対象にはなりませんが、優勝トーナメントには出場できません。

◆ オンライン利用の大会実施に関する注意事項 - Guidelines and Rules on Using Zoom -

- a) スマートフォンを各自一台用意してください。また、ZoomとLINEを使用しますので、参加選手と顧問はアカウントを取得してください。
- b) 今大会はオンラインで行うため、通常の運営と異なることが多々あります。たとえばスケジュールや進行にスムーズに行かない可能性があることもご了承ください。
- c) オンラインによる大会なのでネット回線がある環境が用意できることが参加条件になります。各参加者は必ず適切な環境で試合ができるように事前に準備をしてください。
- d) 自宅で参加できるということにより気が緩むことがあるかもしれませんが、「10 注意事項」を守り、不正は絶対に行わないようお願い致します。万が一、不正が発覚した場合は、その選手が所属している学校はHPDUが開催する大会に一年間参加できなくなります。
- e) 準備時間中にチーム内でメッセージ等をすることは可能ですが、対面での試合と同様に、スピーチ中のチームメイトにチャット等を通してアドバイスをしたり文面を送ったりすることは禁止です。万が一、不正が発覚した場合は、その試合は失格となります。
- f) 試合中のZoom での回線トラブルに関するルールは、以下になります。

- 1) 各試合において、各チームは、合計10分間以上、回線トラブルのために試合を中断させた場合、失格となる。
- 2) 回線が落ちたスピーカーが5分経って戻って来ない場合は他の人が代わりにスピーチを行うこと。そのスピーチについての個人スコアは無効となる。
- 3) Zoom での回線が落ちた場合に各人が行うべきこと：
 - [ア] 自分の回線が落ちた場合：まずストップウォッチを止め、事前に配布するトラブル・シューティングに従い、復旧に努める。
 - [イ] スピーチ中のチームメイトの回線が落ちた場合：その選手が5分経っても戻ってこなかった場合は、代替りのスピーカーがスピーチの続きを行う。
 - [ウ] 相手チームのスピーチ中に、それに反論する次のスピーカーの回線が落ちて5分経っても戻ってこない場合：その選手のスピーチは、代替りの選手が行う。
 - [エ] ジャッジの回線が落ちた場合：スピーチ中であれば、①ストップウォッチを止める。
→② ジャッジ が戻ってくるまで待つ→③ストップウォッチの時間を確認して再開してもらう。

- g) オンラインでの試合を安定して実施するために、外部からの試合観戦については原則遠慮して頂いております。試合会場に入れるのは、試合をする選手、ジャッジ、試合をする学校の方1名（顧問やコーチなど）、本大会の運営(HPDU関係者)のみです。

◆ 出場校 - Participating Schools -

*英語名はチーム登録時に申請されたものをそのまま用いています。

| | | |
|------|-------------------|--|
| 岩手県 | 岩手県立一関第一高等学校 | Iwate Prefectural Ichinoseki-Daiichi Senior High School |
| 茨城県 | 清真学園高等学校・中学校 | Seishin Gakuen |
| 茨城県 | 茨城県立日立第一高等学校 | Hitachi First High School |
| 茨城県 | 茨城県立竹園高等学校 | Takezono High School |
| 栃木県 | 栃木県立宇都宮高等学校 | Tochigi Prefectural Utsunomiya Senior High School |
| 栃木県 | 栃木県立宇都宮東高等学校 | Tochigi Prefectural Utsunomiya Higashi High School |
| 栃木県 | 栃木県立宇都宮女子高等学校 | Tochigi Prefectural Utsunomiya Girls' Senior High School |
| 埼玉県 | さいたま市立浦和高等学校 | Saitama Municipal Urawa High School |
| 埼玉県 | 埼玉県立大宮高等学校 | Omiya High School |
| 千葉県 | 渋谷教育学園幕張高等学校 | Makuhari Senior High School |
| 千葉県 | 芝浦工業大学柏高等学校 | Shibaura Institute Of Technology Kashiwa High School |
| 千葉県 | 翔凜高等学校 | Shorin |
| 東京都 | 渋谷教育学園渋谷高等学校 | Shibuya High School |
| 東京都 | 千代田区立九段中等教育学校 | Kudan Secondary School |
| 東京都 | 広尾学園高等学校 | Hiroo Gakuen Senior High School |
| 東京都 | 白百合学園高等学校 | Shirayuri Gakuen Senior High School |
| 東京都 | 三田国際学園高等学校 | Mita International School |
| 東京都 | 成蹊高等学校 | Seikei High School |
| 東京都 | 筑波大学附属駒場高等学校 | Senior High School at Komaba, University of Tsukuba |
| 東京都 | 東京都立両国高等学校・附属中学校 | Tokyo Metropolitan Ryogoku High School |
| 神奈川県 | 浅野高等学校 | Asano High School |
| 神奈川県 | 栄光学園高等学校 | Eiko Gakuen High School |
| 神奈川県 | 湘南白百合学園高等学校 | Shonan Shirayuri Gakuen High School |
| 神奈川県 | 神奈川県立柏陽高等学校 | Kanagawa Prefectural Hakuyo High School |
| 神奈川県 | カリタス女子高等学校 | Caritas Senior High School |
| 富山県 | 富山国際大学付属高等学校 | Toyama University of International Studies High School. |
| 福井県 | 福井県立藤島高等学校 | Fukui prefectural Fujishima Senior High School |
| 山梨県 | 山梨県立甲府西高等学校 | Yamanashi Prefectural Kofu Nishi High School |
| 長野県 | 長野県屋代高等学校 | Yashiro High School |
| 静岡県 | 加藤学園暁秀高等学校 | Katoh Gakuen Gyoshu |
| 静岡県 | 静岡県立藤枝東高等学校 | Fujieda Higashi Senior High School |
| 静岡県 | 学校法人誠心学園浜松開誠館高等学校 | Hamamatsu Kaiseikan |
| 静岡県 | 静岡県立浜松西高等学校 | Shizuoka Prefectural Hamamatsu Nishi Senior High School |
| 静岡県 | 静岡県立浜松北高等学校 | Shizuoka Prefectural Hamamatsu Kita High School |
| 静岡県 | 静岡県立吉原高等学校 | Yoshiwara High School |
| 愛知県 | 東海高等学校 | Tokai High School |
| 愛知県 | 愛知県立千種高等学校 | Chigusa High School |
| 大阪府 | 関西創価高等学校 | Kansai Soka High School |
| 兵庫県 | 神戸市立葺合高等学校 | Kobe Municipal Fukiai High School |
| 岡山県 | 岡山県立岡山城東高等学校 | Okayama Joto High School |
| 岡山県 | 岡山県立津山東高等学校 | Okayama Prefectural Tsuyama Higashi High School |
| 徳島県 | 徳島県立城ノ内中等教育学校 | Tokushima Prefectural Johnouchi Secondary School |
| 鹿児島県 | 鹿児島県立鶴丸高等学校 | Tsurumaru High School |
| 鹿児島県 | 鹿児島県立大島高等学校 | Oshima High School |

英検

後援：文部科学省

選ばれる理由がある。
可能性は無限大。



実用英語技能検定 2022年度 試験日程

従来型・個人申込

最新の日程は英検ウェブサイトをご確認ください。

※二次試験は一定の条件により、いずれかの試験日程を協会が指定します。詳しくは、英検ウェブサイト(<https://www.eiken.or.jp>)をご確認ください。



| | 第1回 | 第2回 | 第3回 |
|------|---------------------------|--------------------------|------------------------------|
| 一次試験 | 6月5日(日) | 10月9日(日) | 1月22日(日) 2023年 |
| 二次試験 | A 1~3級 | 7月3日(日) | 11月6日(日) 2023年 |
| | B 2~3級 | 7月10日(日) | 11月13日(日) 2023年 |
| | C 1級・準1級 | 7月17日(日) | 11月23日(水祝) 2023年 |
| 申込受付 | 4月1日~5月6日 (書店は4月28日締切) | 8月1日~9月8日 (書店は9月2日締切) | 11月1日~12月15日 (書店は12月9日締切) |

試験日程のご都合が合わない方
英検の受験機会を増やしたい方
こちらの試験もおススメです!

原則毎週土日(一部エリアは平日も)実施[※]・1日で4技能が測定できる英検

※級や地域により実施日は異なります

英検 S-CBT

後援：文部科学省

- ✓ 従来型の英検と同じ難易度、出題形式
- ✓ 一次試験と二次試験を1日で受験できる
- ✓ 取得した級、英検CSEスコアも従来型の英検と同様、生涯有効

詳しくは
英検S-CBT
ウェブサイトへ



IELTS™

海外留学・進学・移住など、
英語力証明の
グローバルスタンダードテスト

詳細・お申し込み

<https://www.eiken.or.jp/cs/ielts/ad/hpdu/2022.html>

英検 IELTS



IELTS(アイエルツ)とは

IELTS(International English Language Testing System、アイエルツ)は、世界140カ国、11,000以上の機関で認定されている4技能英語テストのグローバルリーダーです。世界で年間300万人以上の受験者が、留学・移住・就業のために受験しています。

日本英語検定協会が実施するIELTSは 選べる2つの受験方式

| 受験方式 | IELTS ペーパー版 | IELTS コンピューター版 |
|---------|-------------|----------------|
| 実施エリア | 全国15都道府県で実施 | 東京・大阪で実施 |
| 開催日程 | 毎月4日間程度開催 | 毎月10日間程度開催 |
| 結果ウェブ公開 | 試験13日後 | 試験3~5日後 |
| 受験料 | 25,380円(税込) | 25,380円(税込) |

ご自宅近くで受験したい方におすすめ!

試験日程が多いので予定を合わせやすい!

早く結果を提出したい方におすすめ!

お問い合わせ先 | 公益財団法人 日本英語検定協会
IELTS事務局 (平日9:30~17:30、祝日を除く)

IELTS公式 東京テストセンター (JP500)
TEL:03-3266-6852
Email: jp500ielts@eiken.or.jp

IELTS公式 大阪テストセンター (JP512)
TEL:06-6455-6286
Email: jp512ielts@eiken.or.jp

英検 公益財団法人 日本英語検定協会

BRITISH COUNCIL IELTS Official Test Centre

ブリティッシュ・カウンシルと公益財団法人 日本英語検定協会は、日本でのIELTSを共同運営しています。IELTS is jointly owned by the British Council, IDP:IELTS Australia And Cambridge Assessment English.

◆ 大会日程 - Tournament Schedule -

■ 3月26日(土) 第1日目 予選

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 8:50 | 点呼 |
| 9:20 | ○ 第1試合の対戦表・論題発表 (準備時間20分) |
| 9:45 | 第1試合 (試合時間 約50分) |
| 10:35 | 試合後ジャッジによる勝敗の説明 (結果送信を含め30分以内) |
| 11:25 | ○ 第2試合の対戦表・論題発表 (準備時間20分) |
| 11:55 | 第2試合 (試合時間 約50分) |
| 12:45 | 試合後ジャッジによる勝敗の説明 (結果送信を含め30分以内) |
| 13:15 | 休憩(昼食) |
| 13:50 | ○ 第3試合の対戦表・論題発表 (準備時間20分) |
| 14:15 | 第3試合 (試合時間 約50分) |
| 15:05 | 試合後ジャッジによる勝敗の説明 (結果送信を含め30分以内) |
| 15:55 | ○ 第4試合の対戦表・論題発表 (準備時間20分) |
| 16:25 | 第4試合 (試合時間 約50分) |
| 17:15 | ジャッジによる勝敗の発表なしのアドバイス (結果送信を含め20分以内) |
| 17:35 | 解散 (結果発表は SNS で行います) |

■ 3月27日(日) 第2日目 決勝トーナメント

| | |
|-------|---------------------------|
| 9:00 | 点呼 |
| 9:30 | ○ 準々決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分) |
| 10:00 | 準々決勝 (試合時間 約50分) |
| 11:15 | ○ 準決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分) |
| 11:40 | 準決勝 (試合時間 約50分) |
| 12:30 | 休憩 (昼食) |
| 13:00 | ○ 決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分) |
| 13:30 | 決勝 試合開始 (試合時間 約 60 分) |
| 15:00 | 閉会式 |

*決勝トーナメントの試合は全て、準備時間が25分になります。

高校生向け英語4技能テスト

TEAP

Test of English for Academic Purposes

270を超える
大学入試に
TEAPスコアが
利用可能

※2021年度入試における実績、
2022年3月時点

複数回受験した中で
ベストスコア
を志望大学に
提出できる

高校
1年生以上
対象

スコア取得後2年度の間有効
(取得年度および翌年度の
大学入試に利用できます。)

2022年度 試験日程・申込期間

※コンビニ・郵便ATM支払いによる申し込みは、申込締切日より約1週間前に締め切ります。ご注意ください。
※受験上の配慮申請必須日は、申込締切日より約3週間早く設けています。ご注意ください。

第1回

試験日 **7月24日** 日

申込期間 **5月23日** 月 ~ **6月22日** 水 ※

第2回

試験日 **9月4日** 日

申込期間 **7月4日** 月 ~ **8月3日** 水 ※

第3回

試験日 **11月20日** 日

申込期間 **9月20日** 火 ~ **10月19日** 水 ※



詳しくはTEAPウェブサイトへ

TEAP

検索

<https://www.eiken.or.jp/cs/teap/ad/hpdu/2022.html>

TEAP CBT

Test of English for Academic Purposes Computer-Based Test

※TEAPとTEAP CBTは異なるテストです。

詳しくはTEAP CBTウェブサイトへ <https://www.eiken.or.jp/cs/teapcbt/ad/hpdu/2022.html>

- ICTを活用し、
大学で必要とされる実践的な英語力を測る
- 学習・研究で求められるWriting・Speakingスキルを
複合的に測定
- 年3回の試験実施



TEAP・TEAP CBTに関するお問い合わせ

英検サービスセンター TEAP運営事務局 TEL:03-3266-6556 9:30~17:00(土・日・祝日除く)

英検

公益財団法人

日本英語検定協会

◆ 試合形式 - Debate Format -

[参加人数] 6人 (1チーム3人 × 2チーム)

【話す順番と役割】

*Constructive Speech での POI への Protected Time はスピーチ制限時間の最初と最後の30秒間 (決勝のみ1分間)

| Affirmative Side | Negative Side |
|--|--|
| <p>準備時間</p> <p>(1日目の予選は論題発表から試合開始まで 20分 / 2日目の決勝トーナメントでは 25分)</p> | |
| <p>Constructive Speech (各5分 / 決勝のみ各7分)</p> | |
| <p>◆ 1st Affirmative Speaker</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 論題を確認し曖昧な語を定義し、何を政府側が立証するか説明 (2) 論題を肯定する大まかな理由の提示 (3) 試合で自分とメンバーとそれぞれ何を説明するか、アウトラインの提示 (4) 肯定側の根拠を複数の議論に分け説明 | <p>◆ 1st Negative Speaker</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) PM の定義を確認し必要があれば再定義して野党側が何を否定するか説明 (2) いかなる理由から論題を否定するか、大まかに説明 (3) 試合で、自分とメンバーが何を説明するか、アウトラインを示します。 (4) 政府側の出した議論に対して反論 (5) 野党側の根拠を、複数の議論に分け説明 |
| <p>◆ 2nd Affirmative Speaker</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 否定側との立場の違いを大まかに説明 (2) 否定側の議論に対して反論 (3) 肯定側の新しい議論を導入 (4) 否定側による反論に対して立て直し | <p>◆ 2nd Negative Speaker</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 政府側との立場の違いを大まかに説明 (2) 政府側の議論に対して反論 (3) 野党側の新しい議論を導入 (4) 肯定側による反論に対して立て直し |
| <p>◆ Government Whip (GW)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 試合を総括する観点の導入 (2) 否定側の議論全てに対し反論 (3) 反論された議論を全て立て直し | <p>◆ Opposition Whip (OW)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 試合を総括する観点の導入 (2) 肯定側の議論全てに反論 (3) 反論された議論を立て直し |
| <p>Reply Speech (各4分)</p> | |
| <p>◆ Government Reply</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 試合を総括する観点の導入 (2) 肯定側が試合に勝った理由の説明 | <p>◆ Opposition Reply</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 試合を総括する観点の導入 (2) 否定側が試合に勝った理由の説明 |

◆ 大会ルール - Tournament Rules -

以下は大会ルールの要旨です。ルールに関して判断が必要な場合は、大会運営委員長が最終的な判断を行います。また、オンライン実施特有のルールについては、本冊子 p.9 また巻末の大会要項をご覧ください。

[出場登録について]

- ・ 同一高校に在籍する生徒 3 名で 1 チームの登録となります。各試合ごとに、チーム内でのスピーチ役割は変更しても構いません。
- ・ 日本の高校に在籍している限り、海外経験や国籍などによる本大会への出場制限はありません。

[対戦組み合わせについて]

- ・ 第 1 試合の対戦組み合わせは事前にランダムで決められています。予選 2 試合目、3 試合目、4 試合目はパワーペアリングによって決められます。
- ・ 予選 4 試合の勝敗数、そして勝敗数が同じチーム間ではスピーカース・スコアの総得点で、予選の順位を決定します。勝敗数、スピーカース・スコアの総得点と同じであったチームがあり、表彰等のために順位をつける必要がある場合、まず両チームが対戦したチームの勝ち数の合計を比べ、対戦したチーム群の勝ち数が多い方を上の順位とします。この方法で差がつかなかった場合、対戦したチームのスピーカースポイントで同様の比較をします。
- ・ 上位 8 チームが決勝トーナメントに進出し、準々決勝では予選の成績が良かった順に 1~8 の番号を振り、以下の通りで対戦を行います。

[準々決勝 A] team 1 対 team 8 [準々決勝 B] team 2 対 team 7

[準々決勝 C] team 3 対 team 6 [準々決勝 D] team 4 対 team 5

[試合開始前の準備時間について]

- ・ 論題は、予選では試合開始の 20 分前に発表されます。論題発表後以降は、ディベーターはチームメイト以外と相談してはいけません（顧問とも相談してはいけません）。決勝トーナメントでは、準備時間は 25 分です。
- ・ 高価な道具を用意できたかどうかによって勝敗が左右されることがないように、論題発表以降は、試合参加のためのオンライン機能を除き、ストップウォッチ、電子辞書専用機を除いた電子機器の使用は許されません。携帯電話やタブレット端末をストップウォッチの代わりに用いることも禁じます。

【スピーチの順番および時間（予選試合）】 *決勝の試合のみ Constructive Speech を各 7 分とします。

| 準備時間：大会 1 日目(予選)20 分 / 大会 2 日目（決勝トーナメント）25 分 | |
|--|-------------------------------|
| 1) 1st Affirmative Speaker (5 分) | |
| | 2) 1st Negative Speaker (5 分) |
| 3) 2nd Affirmative Speaker (5 分) | |
| | 4) 2nd Negative Speaker (5 分) |
| 5) Government Whip (5 分) | |
| | 6) Opposition Whip (5 分) |
| | 7) Opposition Reply (4 分) |
| 8) Government Reply (4 分) | |

[試合の流れ]

- ・予選試合、そして決勝戦を除く決勝トーナメントの試合では、最初の6つのスピーチ(Constructive Speech)は各5分間、そしてReply speechは4分間となります。決勝戦のみ Constructive Speechが各7分となります。
- ・各 Constructive Speech の最初と最後の30秒間を除いた時間では、対戦相手のチームは Point of Information(POI)を行うことができます(決勝戦のみ最初と最後の1分間以外)。POIがスピーカーから許可された場合、最長で15秒だけ話すことができます。POIを求める際には、まず必ず起立してください。
- ・Reply Speechは、チームの1人目または、2人目のスピーカーのいずれかが行います。Whip SpeakerがReply speechを行うことは出来ません。
- ・あるスピーカーが、与えられた時間よりも早くスピーチを終えた場合は、時間の経過を待つことなく次のスピーカーのスピーチに移ります。あるスピーカーが30秒以上超過してスピーチを続けた場合、ジャッジが強制的にスピーチを終了させます。

[スピーカーの役割]

- ・各チーム最初の2人のスピーカーは、それぞれ肯定または否定側の議論を示し、また相手チームの議論に最低限の反論をします。
- ・3人目のWhip speakerは、主に相手チームの議論への反論、そして反論された内容を受けての議論の立て直しを行います。
- ・Reply Speechでは、どうして自分たちのチームがその試合で勝利したのか、いくつかの争点に絞って説明を行います。

[勝敗について]

- ・各試合では、勝敗と各スピーカーの個人得点が決められます。Constructive Speechでは、75を基準に上下8点の幅で各スピーチに得点が与えられます。Reply speechでは、37.5を基準に上下4点の幅で得点が与えられます。
- ・予選第1~3試合ではジャッジが試合終了後に口頭で試合の勝敗とその理由を説明します。

Constructive Speeches (out of 100)

| Standard | Overall |
|----------------|---------|
| Excellent | 82-83 |
| Good | 79-81 |
| Above Average | 76-78 |
| Average | 75 |
| Below Average | 72-74 |
| Poor | 69-71 |
| Extremely Poor | 67-68 |

Reply Speeches (out of 50)

| Standard | Overall |
|----------------|-------------|
| Excellent | 41 – 41.5 |
| Good | 39.5 – 40.5 |
| Above Average | 38 – 39 |
| Average | 37.5 |
| Below Average | 36 – 37 |
| Poor | 34.5 – 35.5 |
| Extremely Poor | 33.5 – 34 |

◆ 過去の大会の記録 - Results-

第1回大会 (2012年3月18日) 会場：埼玉県立伊奈学園総合高校

優勝：京都紫野高校 準優勝：さいたま市立浦和高校

| | |
|---------|--|
| Round 1 | This house believes that students in elementary schools and junior high schools should be required to repeat a grade if their class performance is poor. |
| Round 2 | This house would make voting at elections compulsory. |
| GF | This house would ban fortune-telling businesses. |

第2回大会 (2013年3月23、24日) 会場：渋谷教育学園渋谷中学高等学校

優勝：宇都宮高校 準優勝：さいたま市立浦和高校

| | |
|---------|---|
| Round 1 | This house would allow gifted students to skip grades in schools. |
| Round 2 | This house would ban experiments on animals. |
| Round 3 | This house believes that using the Internet in political election campaigns will do more harm than good. |
| QF | This house would use quotas to increase the representation of women in the Japanese parliament. |
| SF | This house would penalize media companies that broadcast the use of physical abuse (such as beating or kicking someone) as a form of humor. |
| GF | This house believes that the US federal government should ban the private use of firearms. |

第3回大会 (2014年3月21、22日) 会場：代々木オリンピックセンター

優勝：国際基督教大学高校 準優勝：渋谷教育学園渋谷高校

| | |
|---------|---|
| Round 1 | This House believes that parents should have the right to access all accounts of their children's social networking sites. |
| Round 2 | This House would apply the retirement age to politicians. |
| Round 3 | This House believes that the Tokyo Olympics venue should include the Tohoku/Fukushima area. |
| QF | This House would deny those who have made poor lifestyle choices and actively harmed themselves (fatty food, alcohol, smoking) the access to the national health insurance. |
| SF | This House believes that research institutions that actively employ female scientists should be given more research funding by the government. |
| GF | This House believes that Japan should not impose any sanctions on Russia regarding the Crimea issue. |

第4回大会 (2015年3月14、15日) 会場：代々木オリンピックセンター

優勝：渋谷教育学園渋谷高校 準優勝：宇都宮高校

| | |
|---------|--|
| Round 1 | This house would require all Internet users to use their real names. |
| Round 2 | This house believes that gambling of all forms (e.g. lotteries, horse racing, or casinos) should be illegal. |
| Round 3 | This house believes that governments should refuse to assist in rebuilding areas prone to natural disasters. |
| QF | This house would abolish death penalty. |
| SF | This house would provide welfare in the form of basic goods and services, rather than cash payments. |
| GF | This house believes that governments should negotiate with terrorists when their citizens are taken hostage by terrorist groups. |

第5回大会 (2016年3月12、13日) 会場：代々木オリンピックセンター

優勝：宇都宮高校 準優勝：洗足学園高校

| | |
|---------|---|
| Round 1 | This house would require broadcasters to devote equal time and prominence to coverage of female sports games as male sports games. |
| Round 2 | This house would pay all elected politicians the median wage in their electoral district. |
| Round 3 | This house would allow prisoners to donate their organs in exchange for shortening of their sentences. |
| QF | This house believes that, upon request by the authority, smart phone companies should be forced to unlock their products used by criminals. |
| SF | This house believes that the EU should abandon its commitment to the principle of open borders between member states. |
| GF | This house believes that democratic countries should not attend sporting events in countries with bad human rights records. |

第6回大会 (2017年3月19、20日) 会場：さいたま市立浦和高等学校

優勝：宇都宮高校 準優勝：筑波大学付属駒場高校

| | |
|---------|--|
| Round 1 | This house would ban alcohol. |
| Round 2 | This house would abolish escalator system in schools (such as Keio, Waseda). |
| Round 3 | This house would legalize organ transplant for profit. |
| QF | This house believes that US military bases should be removed from Japan. |
| SF | This house would abolish all laws restricting free speech. |
| GF | This house prefers a world without marriage. |

第7回大会 (2018年3月24、25日) 会場：国際基督教大学高校 / 代々木オリンピックセンター

優勝：渋谷教育学園渋谷高校 準優勝：さいたま市立浦和高校

| | |
|---------|--|
| Round 1 | This house would ban cosmetic surgery. |
| Round 2 | This house would require doctors to report all cases of suspected domestic violence. |
| Round 3 | This house would give right to vote to prisoners. |
| QF | This house would legalize euthanasia. |
| SF | This house would give national treasures back to its people. |
| GF | This house would criminalize the paying of ransom. |

第8回大会 (2019年3月24、25日) 会場：代々木オリンピックセンター

優勝：渋谷教育学園幕張高校 準優勝：浅野学園高校

| | |
|---------|--|
| Round 1 | This House would ban beauty contest. |
| Round 2 | This House would introduce conscription. |
| Round 3 | This House would completely ban broadcasting of suicide. |
| Round 4 | This House would ban all forms of gambling. |
| QF | This House would ban use of combat drones. |
| SF | This House would trade with oppressive regimes. |
| GF | This House believes that free speech should include the right to offend. |

第9回大会 (2020年3月22、23日) 会場: オンライン実施

優勝: 筑波大学附属駒場高等学校 準優勝: 渋谷教育学園渋谷高等学校

| | |
|---------|--|
| Round 1 | This House would abolish the Olympic Games. |
| Round 2 | This House would prohibit criminals from publishing descriptions of their crimes. |
| Round 3 | This House believes that the state should not subsidize art. |
| Round 4 | This House believes that feminism movement should oppose affirmative action for women. |
| QF | This House believes that humanitarian aid does more harm than good to active conflict zones. |
| SF | This House would prohibit corporations from sponsoring academic research. |
| GF | This House would abolish private property. |

第10回 記念大会 (2021年3月21、22日) 会場: オンライン実施

優勝: 筑波大学附属駒場高等学校 準優勝: 渋谷教育学園渋谷高等学校

| | |
|---------|--|
| Round 1 | This house believes that the age of digital information (e.g. social media, online news, etc.) has done more harm than good in protecting democracy. |
| Round 2 | Given the technology, this house would erase society's memory and evidence of the criminal past of former convicts after their release from prison. |
| Round 3 | This house prefers a world without lying. |
| Round 4 | This house believes that, assuming Personal Protective Equipment is sufficiently available, medical workers during a pandemic should have the right to opt out of service. |
| QF | This house believes that spouses of political figures should not be recognized as public figures. |
| SF | Instead of leaving the decision up to the producing company, this house would legally require that Self-Driving Cars produced by companies always choose to maximize the number of lives saved, even if it leads to the death of the passengers. |
| GF | This house believes that hacking is a legitimate way of protest against multinational corporations |

第11回 高校生英語パラメンタリーディベート連盟 新緑杯
HPDU Spring Greenery Competition 2022
第3回 高校生英語パラメンタリーディベート連盟 新芽杯
HPDU Sprout Cup 2022

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

後援：公益財団法人 日本英語検定協会、一般社団法人 日本英語交流連盟

協賛：有限責任 あずさ監査法人

協力：iae グローバルジャパン株式会社、エイムネクスト株式会社、株式会社E d u L a b、株式会社オールアウト、株式会社トモノカイ

日時：2022年6月の日曜日に新緑杯と新芽杯を同日開催。

場所：オンライン Zoom 等にて実施

参加費：1チームにつき3,000円

主旨：(1) パラメンタリーディベートを通して高校生の総合的英語運用能力を伸ばす。

(2) 新緑杯：経験者が新人ディベーターを育成する機会の提供。

新芽杯：大会出場経験が少ない高校生たちに対外試合の機会を与える。

(3) 新緑杯：様々な社会問題に興味関心を持つ態度を養う。

新芽杯：身近な問題や社会の問題について論理的で説得力のあるスピーチを即興でできる力を伸ばす。

(4) 高校教員のジャッジ養成。

参加資格：(1) 日本に住所がある高校に在学している1学年から3学生までの生徒(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)。

(2) 各校、新緑杯か新芽杯のどちらかを選択して参加。

(3) 1チームにつき1名のジャッジ派遣。

チーム構成の条件：

(1) チームの登録人数は3人。チーム内には必ず新人ディベーターが1人は含まれていること。新人ディベーターとは、パラメンタリーディベート経験がおおよそ10ヵ月未満の生徒を指します。

(2) 同一校のチームの参加とします。ただし、英会話スクールなど HPDU が認めた高等学校以外の団体は例外とします。

新緑杯試合形式：ノースアメリカンスタイル(7分、7分、7分、7分、4分、4分)

1チーム3名、4試合(2試合目以降はパワーペアリング)、準備時間は20分。

新芽杯試合形式：ノースアメリカンスタイル(4分、4分、4分、4分、3分、3分)

1チーム3名、3試合(2・3試合はパワーペアリング)、準備時間は30分とする。

HPDU 杯都道府県大会 推奨論題リスト

- THW allow gifted students to skip grades in schools.
- THW stop teaching English in elementary schools.
- THBT teachers' salaries should be based on students' academic performance.
- THBT schools should ban animal dissection.
- THBT it is better for high school students to have a part-time job.
- THW introduce a fat tax on junk foods.
- THW ban tobacco.
- THW ban cosmetic surgery.
- THW ban children from becoming professional models.
- THBT watching movies at home is better than watching movies at the theater.
- THBT television does more harm than good.
- THW ban violent video games.
- THW ban combat sports.
- THBT the use of animals for public entertainment should be banned.
- THW make voting compulsory.
- THBT the prime minister of Japan should be directly elected by citizens' vote.
- THW abolish the House of Councilors.
- THW introduce mandatory retirement age for politicians.
- THW set quotas for women in the Diet.
- THW require all Internet users to use their real names.
- THW restrict advertising aimed at children.
- THBT criminals trials should be broadcasted on TV.
- THW abolish death penalty.
- THBT torture is justified for national security.
- THBT all violent juvenile offenders should be treated as adults in the criminal justice system.
- THBT governments should never pay ransom to save hostage.
- THW introduce conscription.
- THW legalize active euthanasia.
- THW legalize selling organs.
- THW ban abortion.
- THW abolish zoos.
- THW ban whaling.
- THW legalize genetically modified foods.
- THW ban animal experiments.
- THBT Japan should introduce the carbon tax.
- THBT Japan should stop using nuclear power plants.
- THBT Japan should remove import restrictions on farm products.
- THW raise the consumption tax.
- THW set a maximum limit on salaries.
- THW stop sending humans into space.
- THBT Japan should make English the second official language.

模擬 G20 Summit 2022 実施について

グローバル社会で活躍できる人材の育成を目的として発足した HPDU では、パラメンタリーディベートで身につけた力は必ず将来の役に立つということを、もっと高校生たちに伝えていきたいと考えています。そこで、毎年、模擬 G7 Summit（高校生による模擬 G7 サミット/日本ユニセフ協会に後援）を開催しています。「来年度も是非！」という声に応え、模擬 G20 Summit 2022 の実施を以下のように計画しております。

【内容】 その年の G サミットで取り上げられた問題について、英語または日本語で話し合い、英語で発表する。

【日時】 2020 年 8 月の一日 9:00~15:00 を予定

【場所】 Zoom によるオンラインで開催予定

【主催】 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

【後援】（公財）日本ユニセフ協会に申請を予定

【参加対象】 世界各国の中高生。

【参加費】 無料

【申し込み方法】 実施要項の完成版ができましたら、HP でお知らせいたします。

模擬 G7 サミット 2021 活動報告（HPDU ホームページより）

今年の模擬 G7 サミット (Model G7 summit 2021) では世界 6 か国から 51 名の中高生が集い、政治・経済界における女性の社会進出について意見を交わしました。

開会式では、小林りんさん（UWC ISAK Japan 代表理事）からの参加者へ向けたビデオメッセージを紹介しました。仕事と育児の両立の難しさや、困難に直面しても強い意志をもち続けることの大切さが参加者の皆さんに伝わったようでした。次に石川智尋さん（秋からハーバード大学院へ進学予定）をキーノートスピーカーとして迎え、フェミニズム全般についてお話していただきました。質疑応答も活発に行われ、参加者の皆さんのジェンダー平等に対する関心の高さがうかがえました。その後、運営委員がクイズを交えて現状の問題点や原因、政府の対策についてプレゼンテーションをしました。また、ジェンダー論を専門とする瀬地山角さん（東京大学教授）が作成して下さった、高等教育における男女格差の原因に関するビデオレクチャーも紹介しました。参加者の皆さんが熱心に聞いていることが画面越しに伝わってきました。



その後はグループディスカッションに入り、参加者の中高生は「実現可能で効果的、そして社会に受け入れられるような行動計画を高校生独自の視点から考える」という課題に取り組みました。今回は英語で話し合うグループを 4 つ、日本語で話し合うグループを 2 つ設け、発表は日本語で話し合ったグループも全て英語で行いました。年配者に対する教育、エンターテインメントや SNS を通じた社会啓発活動、中高生による NGO の発足など、様々な角度からの考察が見られ、ジェンダー平等を実現しようとする中高生の意欲が感じられました。

閉会式では、J7 サミット 2015 日本代表として独メルケル首相と意見交換した足立愛音さんと石川智尋さんから講評をいただきました。「様々な国の高校生と議論することができ、充実した時間を過ごすことができた」などの感想が寄せられ、参加者にとって実りのある一日になったことを嬉しく思います。最後になりましたが、世界各地の中高生やゲストの皆様をはじめ、このサミットを成功へ導いてくださったすべての方々へ感謝申し上げます。

（文責 渋谷教育学園渋谷高等学校 2年 石井誠子）

第11回HPDU杯全国大会 各都道府県代表校
 学校長 様
 英語ディベート担当教員 様

日本高校生パラメンタリーディベート連盟
 HPDU of Japan

第11回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 HPDU Competition 2022 (Co-sponsored by HPDU and ESUJ) 実施要領

新型コロナウイルス対策のため、以前に発表したのから大幅に変更し、自宅から参加できるオンラインで開催することになりました。

共同主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟 (HPDU of Japan)
 一般社団法人 日本英語交流連盟 (The English-Speaking Union of Japan)
 後援：文部科学省 (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)
 :ブリティッシュ・カウンシル (British Council)
 カナダ大使館 (Embassy of Canada to Japan)
 特別協賛：有限責任 あずさ監査法人 (KPMG AZSA LLC)
 協賛：公益財団法人 日本英語検定協会 (Eiken Foundation of Japan)
 iae グローバルジャパン株式会社 (iae GLOBAL JAPAN, Inc)
 株式会社テレビ東京 (TV TOKYO Corporation)
 キヤノン株式会社 (CANON INC.)
 キヤノンマーケティングジャパン株式会社 (Canon Marketing Japan Inc.)
 ANA ホールディングス株式会社 (ANA HOLDINGS INC.)
 メディアパートナー：読売新聞社 (THE YOMIURI SHIMBUN)
 協力：株式会社アルク (ALC PRESS INC.)
 イーエムティー株式会社 (Energy Management Technologies KK)
 エイムネクスト株式会社 (AIMNEXT Inc)
 株式会社EduLab (EduLab, Inc.)
 株式会社オールアバウト (All About, Inc.)
 株式会社トモノカイ (Tomonokai Co., Ltd.)
 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 (Japan Philharmonic Orchestra)

1 趣 旨

全国の高校生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緊急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を養う。また、参加者間の交流を図り、共に学び合う関係を作る。

1

2 日 時

- 1) 全国大会予選 (44 チームを予定) 2022年3月26日 (土) 8:50~17:45 頃
- 2) 決勝トーナメント (上位8チーム) 2022年3月27日 (日) 9:00~16:00 頃

3 場 所

Zoom を使用して実施するため各自 Wi-Fi 環境が整っている場所をご用意してください。また、大会当日の連絡などには LINE を使用します。参加選手および顧問の先生は予め Zoom と LINE のアカウントを取得してください。

4 内 容

World School's Debating Championships(WSDC) Style (但し本大会用に修正を加えたもの) による英語ディベート大会 1 チーム3名、予選4試合(2、3、4 試合目はパワーベアリング) 各チームの勝ち数と得点ポイントで、上位8チームを決め、決勝トーナメント

5 参加資格

日本に住所がある高校に在学している学生(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)のうち、日本高校生パラメンタリーディベート連盟に公式認定された各都道府県大会に参加して出場権を獲得した高校の生徒、または本連盟より特別に出場権を与えられた者 (同一都道府県内に出場希望校が一校のみであった場合など)。

6 参加手続き

- 2月26日 (土) 19:00 までに、下記の選手登録フォームからお申し込み (期限厳守)。
選手登録フォーム <https://forms.gle/rjXmb6aGoMr6VX9EA>
- 3月1日 (火) までに、参加費 3,000 円を下記の口座に **学校名** で振込み。
振込先銀行：埼玉りそな銀行 伊奈支店。
普通預金 口座番号：3916652
振込先口座名義：日本高校生パラメンタリーディベート連盟
ニホンコウセイバラーメンタリーディベート連盟
- 3月8日 (火) までに、全選手の撮影同意書を hpduofjapan@gmail.com に送付。
なお、撮影同意書は HPDU のホームページよりダウンロードしプリントアウトしてご利用ください。

※以上の3点をもって出場登録となります。期日までに上記すべてが行われない場合、出場が認められない場合があります。

7 大会の日程 (オンラインのため変更の可能性あり)

- 第1日目 予選
- 8:50 点呼、開会式
 - 9:20 第1試合 対戦表・論題発表 (準備時間 20分)
 - 9:45 第1試合 (約50分)
 - 10:35 ジャッジによる勝敗の説明 (30分)
 - 11:25 第2試合 対戦表・論題発表 (準備時間 20分)
 - 11:55 第2試合 (約50分)

2

- 12:45 ジャッジによる勝敗の説明 (30分)
- 13:15 休憩 (昼食)
- 13:50 第3試合 対戦表・論題発表 (準備時間 20分)
- 14:15 第3試合 (約50分)
- 15:05 ジャッジによる勝敗の説明 (30分)
- 15:55 第4試合 対戦表・論題発表 (準備時間 20分)
- 16:25 第4試合 (約50分)
- 17:15 ジャッジによる勝敗の発表なしのアドバイス (20分)
- 17:35 解散 (結果発表は SNS で行います)

第2日目 決勝トーナメント

- 9:00 点呼
- 9:30 準々決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 25分)
- 10:00 準々決勝 (約50分)
- 11:15 準決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 25分)
- 11:40 準決勝 (約50分)
- 12:30 休憩 (昼食)
- 13:00 決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 25分)
- 13:30 決勝 (約60分)
- 15:00 閉会式

8 試合形式

[対戦組み合わせについて]

第1試合の対戦組み合わせは事前にランダムで決める。予選2~4試合目はパワーベアリングによって決める。予選4試合の勝敗数、そして勝敗数が同じチーム間ではスピーカーズ・スコアの総得点で、予選の順位を決定する。上位8チームが決勝トーナメントに進出し、準々決勝では予選の成績が良かった順に1~8の番号を振り、以下の通りで対戦を行う。

準々決勝 A: team 1 対 team 8 準々決勝 B: team 2 対 team 7
 準々決勝 C: team 3 対 team 6 準々決勝 D: team 4 対 team 5

[試合開始前の準備時間について]

論題は、予選では試合開始の20分前に発表される。論題発表後以降は、ディベーターはチームメイト以外の人との相談は禁止とする (顧問との相談も禁止)。

決勝トーナメントでは、準備時間は25分とする。高価な道具を用意できたかどうかによって勝敗が左右されることがないように、論題発表以降は、ストップウォッチ、電子辞書専用機を除いた電子機器の使用は禁止する。

[スピーチの順番および時間]

試合の流れ 準備時間 第一日目20分、第二日目25分

- 1) 1st Affirmative Speaker 【5分】
- 2) 1st Negative Speaker 【5分】
- 3) 2nd Affirmative Speaker 【5分】

3

4) 2nd Negative Speaker 【5分】

5) Government Whip 【5分】

6) Opposition Whip 【5分】

7) Opposition Reply 【4分】

8) Government Reply 【4分】

*決勝のみ Constructive Speech を各7分とします。

最初の6つのスピーチ(Constructive Speech)の時間は各5分間、ただし**決勝ラウンドのみ各7分間**。Reply Speech は4分間。各 Constructive Speech の最初と最後の30秒間 (決勝のみ1分間) を除いた時間では、対戦相手のチームは Point of Information (質問、反論、コメント) を行うことができ、Point of Information がスピーカーから許可された場合、最長で15秒話すことができる。

Reply Speech は、チームの1人目または、2人目のスピーカーのいずれかが行い、Whip Speaker が Reply Speech を行うことはできない。

[スピーカーの役割]

各チーム最初の2人のスピーカーは、それぞれ肯定または否定側の議論を示し、また相手チームの議論に最低限の反論をする。

3人目の Whip speaker は、主に相手チームの議論への反論、そして反論された内容を受けての議論の立て直しを行う。より詳しいやり方については、HPDU のホームページの「参考資料」内「Whip を極める」を参考にしてください。

Reply Speech では、どうして自分たちのチームがその試合で勝利したのか、いくつかの争点に絞って説明を行う。

9 評価方法

[勝敗について]

各試合では、勝敗と各スピーカーの個人得点が決められる。

Constructive Speech では、右の表で示すとおり、75を基準に上下8点の幅で各スピーチに得点が与えられ、Reply speech では、37.5を基準に上下4点の幅で得点が与えられる。

予選ではジャッジが試合終了後に口頭で試合の勝敗とその理由を説明する。

| Standard | Overall |
|----------------|---------|
| Excellent | 80-100 |
| Good | 70-80 |
| Above Average | 70-75 |
| Average | 70 |
| Below Average | 70-75 |
| Poor | 60-70 |
| Extremely Poor | 60-65 |

| Standard | Overall |
|----------------|-----------|
| Excellent | 41-60 |
| Good | 36.5-40.5 |
| Above Average | 36-38 |
| Average | 37.5 |
| Below Average | 36-37 |
| Poor | 34.5-35.5 |
| Extremely Poor | 33.5-34 |

[表彰について]

- チーム成績は、まず試合の勝ち数で順位を出し、同じ勝ち数のチーム同士の、個人得点の合計を比べて出します。
- チーム成績の順位について、勝ち数が同じ、そして個人得点の総数が同じチームがあった場合、以下の様にして最終的な順位を決定します (表彰などで順位を確定させる必要がある場合) : それぞれが対戦

4

したチームの勝ち数の合計→(上記の合計が同じ場合) それぞれが対戦したチームの個人得点の合計
・個人成績は、個人得点の累計で出します。

10 注意事項

- ・ディベーターは試合中に時間を計る際はストップウォッチかタイマーを使用してください。
- ・ディベーターは準備時間内にチーム内の者以外と相談することはできません。
- ・ディベーターは準備時間内そして試合中に、電子辞書を除いた電子機器(例 インターネット接続機能を持ったタブレット・コンピューター等)を資料の検索を目的に使用することはできません。
- ・ディベーターは準備時間内そして試合中に、書籍など、辞書以外の紙媒体の資料を閲覧することはできませんが、自作の資料ノートやコピーをファイルしたもの、フォーマットが書かれたプリントの使用は許されています。
- ・Point of Order (試合中に対戦相手のルール違反を指摘する行為) は禁止します。ルール違反があった場合、ジャッジが判断をするものとします。試合進行上支障をきたすルール違反があった場合、ジャッジが適切な処置をします。
- ・Constructive Speech に対して Point of Information (POI) を行う場合「Point」「Point of Information」といった表現で POI による発言の許可をスピーカーに求めてください。5分間の最初と最後の30秒間(決勝は7分間なので最初と最後の1分間)は POI 不可。POI により発言を許可された者は、15秒間だけ発言を許されます。Reply Speech に対しては POI 不可。
- ・相手チームの顧問の承諾なしに、試合を録音、撮影、録画することは禁止です。
- ・HPDUの記録担当が撮影したものに關しては、後日、HPDUやESUJのホームページ、後援・共催・協力団体への報告書、HPDUやESUJについての説明会や講演で使用することがあります。ご了承ください。
- ・大会の様子は読売新聞が取材し、同社の媒体で紹介される予定です。写真撮影も行うこともあるかもしれませんが、参加者全員の「撮影同意書」提出が大会の参加条件になりますので、よろしくお願ひいたします。読売新聞の記事に関しても HPDU や ESUJ の報告書などで使用することがあります。
- ・急な発熱などにより選手を変更せざるをえない場合は、大会前日の19時まで連絡してください。代わりの選手が見つからず、2名以下での参加となってしまった場合は、個人賞の対象にはなりませんが、優勝トーナメントには出場できません。

11 オンライン利用の大会実施に関する注意事項

- ・スマートフォンを各自一台用意してください。また、Zoom と LINE を使用しますので、参加選手と顧問はアカウントを取得してください。
- ・今大会はオンラインで行うため、通常の運営と異なることが多々あります。たとえばスケジュールや進行にスムーズに行かない可能性があることもご了承ください。
- ・オンラインによる大会なのでネット回線がある環境が用意できることが参加条件になります。各参加者は必ず適切な環境で試合ができるように事前に準備をしてください。
- ・自宅で参加できるということにより気が緩むことがあるかもしれませんが、「10 注意事項」を守り、不正は絶対に行わないようお願い致します。万が一、不正が発覚した場合は、その選手が所属している学校は HPDU が開催する大会に一年間参加できなくなります。
- ・準備時間中にチーム内でメッセージ等を行うことは可能ですが、対面での試合と同様に、スピーチ中のチームメイトにチャット等を通してアドバイスをしたり文面を送ったりすることは禁止です。万が一、不正が発覚した場合は、その試合は失格となります。
- ・試合中の Zoom での回線トラブルに関するルールは、以下になります。

5

- 1) 各試合において、各チームは、合計10分間以上、回線トラブルのために試合を中断させた場合、失格となる。
 - 2) 回線が落ちたスピーカーが5分経って戻って来ない場合は他の人が代わりにスピーチを行うこと。そのスピーチについての個人スコアは無効となる。
 - 3) Zoom での回線が落ちた場合に各人が行うべきこと：
 - 自分の回線が落ちた場合：まずストップウォッチを止め、事前に配布するトラブル・シューティングに従い、復旧に努める。
 - スピーチ中のチームメイトの回線が落ちた場合：その選手が5分経っても戻ってこなかった場合は、代わりのスピーカーがスピーチの続きを行う。
 - 相手チームのスピーチ中に、それに反論する次のスピーカーの回線が落ちて5分経っても戻ってこない場合：その選手のスピーチは、代わりの選手が行う。
 - ジャッジの回線が落ちた場合：スピーチ中であれば、①ストップウォッチを止める。→②ジャッジが戻ってくるまで待つ→③ストップウォッチの時間を確認して再開してもらう。
- ・オンラインでの試合を安定して実施するために、外部からの試合観戦については原則遠慮して頂いております。試合会場に入れるのは、試合をする選手、ジャッジ、試合をする学校の方1名(顧問やコーチなど)、本大会の運営(HPDU 関係者)のみです。

12 各種教育奨励賞

- 1) ESUJ 賞：コロナ禍での英国 ESU Debate Academy 開催困難なことに鑑み、優勝チームのディベーター1名につき教育奨励金として10万円贈呈。総額30万円。
- 2) あずさ監査法人賞：参加者全員にバーラメンタリーディベート練習用テキストを贈呈。
- 3) 日本英語検定協会賞：予選ベストスピーカー賞受賞生徒、決勝トーナメント出場校に図書カードを贈呈。
- 4) 日本フィルハーモニー交響楽団賞：上位4チームに音楽CDを贈呈。
- 5) キヤノン賞：優勝チームにデジタルカメラとSDカードを贈呈。
- 6) キヤノンマーケティングジャパン賞：準優勝チームにスマホ専用ミニフォトプリンターを贈呈。
- 7) アルク賞：予選大会ベスト16以上のチームに書籍を贈呈。

6

《第12回HPDU杯参加登録手順》

第12回連盟杯 参加校プレエントリー 11/25(金)～12/15(木) 19:00
※各都道府県大会の開催を確認し、各校にお伝えするためのエントリーです。

都道府県大会開催が決定している場合

12/15(木)の時点で地域大会開催手続きを終えている都道府県については、その大会についての情報をHPDUからプレエントリーをした各校の顧問の先生にお伝えします。その大会開催責任者に連絡を取り、都道府県大会の実施要綱に記載された期限までに参加登録を終えて下さい。

都道府県大会開催が決定していない場合

地域大会開催登録を行っていない都道府県については、プレエントリーをした各校の顧問の先生のご連絡先をお伝えするので、お互いに連絡を取り合い、地域大会を開催して下さい。複数のエントリーがあった都道府県は、地域大会の開催が全国大会出場の条件となっています。

※大会開催が決まりましたら、開催責任者の方は12/25(日)19:00までにHPから都道府県大会開催申請を行って下さい

同一都道府県内に他校のエントリーがなかった場合

そのまま都道府県の代表となります。

都道府県大会 1/4(水)～2/11(土・祝)で日程が設定されています。

※実参加校数に基づいて都道府県ごとの全国大会出場枠を決定します。大会開催責任者は全参加校の順位を2/11(金・祝)19:00までに報告して下さい。

2/17(金) 第12回連盟杯全国大会出場校決定

第12回連盟杯全国大会出場校参加者名登録 2/17(金)～2/26(日)19:00

第12回連盟杯全国大会 3/24(金)午後～3/26(日)17:00
於 国立オリンピック記念青少年総合センター

都道府県大会開催スケジュール

～12/15(木) 19:00 都道府県大会開催申請

都道府県大会開催登録フォーム入力。都道府県大会の募集要項をメールで HPDU に提出
募集要項の大会名は「第 11 回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 県名(例 東京都)大会」、英語名を「HPDU of 県名(例 Tokyo) Competition 2022」として下さい。

※～12/25(日) 19:00 都道府県大会開催追申請

複数の学校のエントリーがあったにもかかわらず 12/15(木)までに都道府県大会開催の申請がなかった都道府県に関しては、プレエントリーをした各校の顧問の先生のご連絡先をお伝えするので、お互いに連絡を取り合い、地域大会を開催して下さい。



HPDUが公式認定



都道府県大会 1/4(水)～2/11(土・祝)



～2/11(土・祝) 19:00 都道府県大会結果報告

フォームで、大会結果を HPDU に報告

※全参加校に必ず順位をつけてください。実参加校数をもとに各都道府県に割り当てる
枠数を決定します。



2/17(金) 第 12 回連盟杯全国大会出場校決定校の発表

(各県の登録状況によっては、発表日が延期されることがあります)

挑み方が 変わる。

企業の存在意義と責任が、これまでになく問われる時代。
KPMGは、深い洞察力とデジタルテクノロジーで、
複雑な問題解決を支援。
企業の変革と成長を支えます。
いつも挑戦者のそばに。

Anticipate tomorrow. Deliver today.



KPMG

KPMGジャパン

有限責任 あずさ監査法人 KPMG税理士法人 KPMGコンサルティング株式会社 株式会社 KPMG FAS
KPMGあずさサステナビリティ株式会社 KPMGヘルスケアジャパン株式会社 株式会社 KPMG Ignition Tokyo

home.kpmg/jp

© 2022 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved.
The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.

03

.26,27

hpodu national competition

2022

